

第4回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事概要

■日時：

令和元年12月6日（金）10時00分～12時00分

■場所：

草津市役所4階行政委員会室

■出席委員：

中川委員長、土山委員、重原委員、梅村委員、花澤委員、辻委員、堀井委員

■欠席委員：

井上委員、宮下委員、東川委員

■事務局：

【行政】

中村副部長、角課長、中立課長補佐、大野課長補佐、古野課長補佐、大溝主事

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

諸岡氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

村山氏

■協働コーディネーター】

阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

0名

1. 開会

【事務局】

皆様おはようございます。定刻になりましたので只今から令和元年度第4回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきたいと思っております。本日の会議については、第2次草津市協働のまちづくり推進計画の策定に向けて、および市民参加の手法に関して御審議いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、中川委員長、進行の方よろしく願いいたします。

2. 審議事項

(1) 第2次草津市協働のまちづくり推進計画策定に向けて

【事務局】

<資料に基づき説明>

【A委員】

1 ページの写真について、課題共有型地域円卓会議の「議」が抜けている。2 ページの市民の定義について、市内で活動する“団体”になってしまうため、市内で活動する“もの”にしてはどうか。

6 ページの「地域の組織やグループに加入している方の割合」の選択肢について、「そう思う」「ややそう思う」は違和感がある。実際の選択肢を確認して、修正が必要ではないか。

1 3 ページの「協働意識の醸成と組織体制の充実」について、「市と他の主体による協働事業で解決するためには、行政職員がアドバイザーやコーディネーター役を担う必要があることから」との記述では、アドバイザーやコーディネーター役は職員のみが担うと捉えられる。そうではなくて、他の主体と様々な協働を実現していく中で、アドバイザーやコーディネーターを担うこともあるが、逆に市民にお願いすることもある。

【委員長】

「アドバイザーやコーディネーター役を担う必要が生じることもあり得る」に変更してはどうか。

【事務局】

再度検討します。

【D委員】

市民対象の人材育成、リーダーの養成については、言葉では簡単に説明できるが、具体的にどのように実践していくのかということが非常に難しい。

【委員長】

現計画でも担い手の発掘について記載しているが、今回第2次計画ではさらにきちんと書き込むというものである。今後の展開に向けて、当計画が強化剤のようになれば良い。

【F委員】

1 8 ページの市民について、「年齢、性別、国籍、障害や住民票の有無等に関わらず、」とあるが、ここで「障害」を入れる必要があるのかと疑問に感じた。

また、2 2 ページの教育機関の“主な方向性”のについて、「生徒や学生に地域活動への参加を促す取組が必要です。」とあるが「参加」ではなく、「参画」にしてはどうか。もう一歩踏み込んで、主体的に関わっていただきたい。

【A委員】

「障害」については、あえて書くことが区別になるのではないかという意見であると考え

るが、逆に多様にいる我々皆が市民である、ということを書くことでその区分を超えていくことにつながれば良いのではないか。

【E委員】

一人の町民として、地域の方と手をつなぎながら、様々なところに気を向け、参加することを広く啓発していきたいと感じた。

【C委員】

役員に男性が多く、女性の意見が必要な時に困る。また、町内会加入率を維持していくための方策がさらに重要となってくる。

【B委員】

P 1 8 市民の7行目の「若い力や女性の声を取り入れていくことは、」となっているが、文章に違和感を感じるため、再考していただきたい。

P 2 2 教育機関の役割について、他の主体の役割では“努める”と統一している中、「取り組みましょう」となってるため統一すべきではないか。

【委員長】

教育機関には、公的教育機関だけではなく私立大学、私立高校も含まれているため書き方が他と異なる。

それから、P 1 8 市民の文章に「障害」を入れるかとの意見があったが、「年齢、性別、国籍、障害」実は全て差別の対象である。高齢者差別や女性差別、国籍差別、障害者差別。その差別を克服しようと言う意味が込められている。

【F委員】

納得した。

【委員長】

障害の「害」については漢字かひらがなかということが草津市として定まっていれば統一すべき。

【事務局】

確認し統一します。

【委員長】

目標値に町内会加入率が入っているが、目標値として設定するならば公的な支援制度が

用意されるべきであるが何かあるか。

【事務局】

現在実施しているのは、側面的な支援と転入するにあたっての手続きの中で、町内会の必要性に関するチラシを配布させていただいています。

【委員長】

町内会加入率については、誰に対する目標数値なのか明確にできないため参考指標という扱いにすべきではないか。

【事務局】

加入率ではなく、活動参加率のような数値を目標値に設定できれば良いのですが、数値を把握することが難しいのが現状です。

【委員長】

市民の指標の②「地域の組織やグループ等に加入している」という指標があるため、町内会加入率は参考指標として把握すればよいと考える。

頂いた御意見を基に修正していただきますが、修正については私と副委員長に一任していただけますか。本日この後市長に、答申として計画（案）をお渡しします。

(委員了承)

それでは、審議事項2に入ります。市民参加の手法に関する意見交換について事務局より説明をお願いします。

(2) 市民参加の手法に関する意見交換

【事務局】

<資料に基づき説明>

【D委員】

まちづくりに関わっている方が参加し、意見を共有していただけてよかった。地域の課題を把握している町内会長が参加できるような機会があれば良いと感じた。

【F委員】

多様な意見が聞けて非常によかった。会議の対象者、実施する場所や時間の工夫が必要である。

【E委員】

町内会で話し合う機会は多くないため、地域の方が気軽に話し合える場を増やすことが重要であると感じた。地域サロンや老人クラブ、PTA 会議等で、円卓会議のような話し合いの場を設けて、気軽に話し合いながら問題意識を高めることができれば良いと感じた。

【C委員】

複数の町内会が集まって意見共有できれば良いと感じた。

【B委員】

町内会に関わらず、NPO 団体等の集まりの場を利用し、テーマや年代、男女等で絞りながら様々な方が参加できることが必要であると感じた。

【A委員】

少人数でも多人数でも使える手法であるんですけども、3人一組で話していただくことで深く引き出すことができたのではないかと感じる。

例えば、「あなたの困りごとをテーマに円卓会議を開催させてください」という投げかけで、地域の課題を共有するような仕掛けが必要である。具体的な問題提議に関して、良い情報を持っている人が情報を共有することで、その後の意見交換が良いものになる。

3人での話し合いは“許された私語”という感覚で、本音で話すことができるため、3人1組ということがポイントである。

【委員長】

3人1組での話し合いは深みが出てよかったと感じる。参加者の人数が多ければテーブル毎の発表は厳しいのか。

【A委員】

テーブル毎の発表は厳しい。円卓会議自体の目的は課題の共有であるため、話し合いの内容がこの後どうなるかについて、意識を向けていただくことが重要である。

参加者が当事者意識を持って、課題について考え共感し、その後に活かしてもらうところがポイントである。

【委員長】

ありがとうございました。頂いた御意見を参考にさせていただきます。以上で本日の案件は全て終了しました。事務局に進行をお返しします。

【事務局】

ありがとうございました。来月、中旬から 1 か月間パブリックコメントを実施する予定です。次回の会議ではパブリックコメントの実施結果を報告をさせていただきます。

それでは、これを持ちまして、第 4 回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を閉会させていただきます。

3. 閉会

答申

【事務局】

これより、第 2 次草津市協働のまちづくり推進計画（案）について答申いただきます。今年度、第 1 回目の委員会で、協働のまちづくり推進計画策定について、市より当委員会に対して諮問させていただき、委員長、副委員長、ならびに委員の皆様におきましては、計画について活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。厚くお礼を申しあげます。答申の前に市長から御挨拶をさせていただきます。

【市長】

協働のまちづくり市民参加推進評価委員会より本日答申をうけさせていただくにあたりまして、一言、お礼の御挨拶を申しあげます。

本市では、協働のまちづくり条例を平成 26 年 7 月に施行をいたしまして、それを受け平成 27 年 4 月からの協働のまちづくり推進計画を定めてこれまで取組を続けております。来年 3 月に計画期間が終了するという中で、今回第 2 次協働のまちづくり推進計画を策定に向け、本委員会に諮問をさせていただきまして、その後 4 回に渡りまして活発な御議論をいただくとともに、課題共有型地域円卓会議や LIVE 市民フォーラムという手法を取り入れることで、多様な市民の声をお聞きいただいた中で、計画案をまとめたこと、厚くお礼を申し上げるところでございます。

この答申に基づきまして、一月からパブリックコメントを市として実施をいたしまして、広く市民の皆様の声をお聞きしながら、計画を定めて参りたいと考えております。

「学ぶ、見える、つながる」の三つのキーワードを掲げていただいております、互いに学び合うこと、また見える化するということにつながりが生まれてまた広がっていくことを掲げていただいておりますし、現在建設中の（仮称）市民総合交流センターに入る中間支援組織や男女共同参画センター等が入っていただくという中で、まさに新しい拠点として動き出そうとしているところでございます。それについては、「（仮称）お互いさまプロジェクト」という新しい展開の提案を賜っているところであります。これらを受けまして、来年度から計画に基づいて、さらに一層、協働のまちづくり進めて参りますのでどうぞ委員の皆様には今後とも御支援を賜りますようお願い申しあげ、お礼の挨拶とさせていただきます。

ます。どうもありがとうございました。

【事務局】

それでは、諮問いただきました第2次草津市協働のまちづくり推進計画（案）の策定につきまして、これより答申いたします。

－答申－

【事務局】

ありがとうございます。委員のみなさまにおかれましては、これまで審議に御協力いただきましてありがとうございました。答申いただきました計画につきまして、今後パブリックコメントを行い、結果を改めて報告させていただきます。本日はどうもありがとうございました。